武藤

夢ふくしの玉笑

貳

へ遠13
1461
2

帝国図書館蔵書

帝国図書館 13
1.461
巻 2

養洋猟百丹之二

物ゝるゝ丹糸金ゝ集ゝ徒ゝ丹男仲ゝ

生ゝ山猟丹国丹宇徒ゝ丹巣丹関東ゝ陸ゝ

ゝ徒丹作七屋発丹金物なゝ徒丹十られゝ糸ゝ

ゝられ丹白ゝ生ゝ丹さゝゝゝゝ業ゝ丹郭徒

ゝ見ゝ丹国みゝゝ戸金ゝ浦徒ゝ小鮒乃

徒ゝ丹ゝゝ徒丹越徒丹国みゝ

諸侯の男は利休侘び冊は鬼灸席を占して
茶を点ずる初上席より雲集水こる者の白
此の度者ども多きケ様の侘を好み乃つ
余は気みあるべし婦人は
威勢強壁男は位裏表り丈男女は
交を天地自然は乃理なり吉凶は
交を生ずるを減多の如は方よを

風儀ずつかの和会をなるもあれ
ども乱ずして会を生ずゆえ
男は方より金銀を軽くやうし
男女は和合をなるを吉凶は道理
よりそむきまるれば男を婦人は
金銀を費し婦人は男は
得るを入は遠きを無ぞ者八婦人は男を

逆鬼毒蛇悪鬼ども
巖石ゝ
如ゝ
延ゝ
泳ゝ
たゝ
ゝ

ゝて女ゝ
八日寺國
辛抱ゝて
なゝ
ゝ
なゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一札ハ[illegible]

血判

一ハ[illegible]男子仲間中会せ先十ヶ年

[illegible]

一縁今支婦[illegible]

[illegible]

一兄嫁ハ[illegible]母[illegible]

[illegible]

一物淫の女の強いほど白くなるも
のなり人かまへかゝること
一ゝゝ如此方ようまもるとて
口伝をまもる強くあるのをぞ
右ゝ傳ゝおもるに男此方より物色
なぐあゝびあるばは味ゝ上手に成
ゆゑ血刺さるく厳重

よおもるる所ゝて如此方あもおもよ一生
い強乱てゝゝるぐ陰ゝ周りとるる
ゝ対て仕事ゝよ如此淋ゝくゝ生
なぐゝ女後の陰く濡れる花男此
強の毛と撫ゝい筆撫此ゝ
ゝ後の海毛合物あゝゝ鼻穴撫此撫
ぐなく男ゝゝ右ぐ分ゝむ如此方よゝ

家綱卿

家綱
壺丸

[illegible]
水腫のやまひ　十七八廿二三にて肥たるものの
なるべし　きりてうる陽甲ゑつぐさのあとを
[illegible]白膨脹　しぼりあつめて海の風にあて
よくよくあぶりもち　[illegible]一粒ずつ
三人にて　[illegible]をなべて　[illegible]
[illegible]又　[illegible]

[illegible]医者を[illegible]
さくなると一医者病家よりまねいたるに
[illegible]
[illegible]金医難病[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]よあまたるてくのはぶ[illegible]
時今[illegible]国会[illegible]
[illegible]し。[illegible]を男は輝鼻輝は[illegible]で[illegible]
[illegible]は南は方[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]代[illegible]
[illegible]

大黒屋は地[illegible]巨[illegible]
[illegible]
[illegible]八[illegible]は大[illegible]
[illegible]臺省[illegible]
[illegible]
[illegible]減[illegible]
[illegible]

男ゆゑ男と云るゝ和のめしなどゝ
とゝ女ゝ姫君男に和よりよ事ちゝ
せゞしゆ事とゝ所ゆをおこす賞うり
集ゝ事 駿じ
かゝてしゆゝ男れ覓野食とゝゆが
ゆゝ男おゝゆゝとゆゝ男が歩と
狼藉よ戯業を仕掛ゝゆゝ和所

乃小男や 多代ゝ和ゝ門ゝ生ゝ
やゝよゝ見ゝ生ゝ貢野食ゝ代ゝ
婦人ゝ馬を乳市より乳を徳ゝ 上市昊れ
情張糸業師訳生れ法人舎 足長 長ゞ
なゝて小道奥允業ゝ居を 歌を 生ゝ
ゝ小ゝ陸生 ゝ月みを 生ゝ代り
ゆが 貢乗食れ ゝ年 絵帛舗 生ゝ代

鄙つれ者の屋敷に所方の秘蔵式を
いふ堂草履を小ぶ飯焚料理くれを
ゆるもこれ出れども押小袋
乃口入口紫色が形を張りいつも
薬膳秘とく陳列ものとく
ホあつれ毛蔵ちる奴れ代り組を
乃恨なく紙もくなし行れ屋敷
小袖を着ず裏ず胴ず浅葱好
ず男ん物ふ乃ふ乃ふ乃ふ
なり生えなる。一丁ばつくれて
かれ奴の傷より足ん。ばくれあなん
膝ん跡を男れ引して大擂ず形
ちをよて長くあぶと。ぶん入る
くもつ奴いどくやら屋敷楽く脚を

こゝやめく　些麹　女　こしく　そきん　えつん　事も

なん　母もなんもし　此所より　紙れ　初るの　ふ

があるを　そんよ　そこふぐ　一ッ　碁　一石　伺て

さこじゃあるそんら　図　さくよ　女とこんだ　事

そこいんヤこそこ　みゆ　者ぐこう　と

一所より　毎まるぐ　屋ん　こと　伝より　嬶　てこ　こぐい

図　なんれ　なぐつく　伺ゆこう　祈こよ　まぐ　遠

なこ　紙れ　四覚　こう　お　あれ　麹　賛　南て　紙る

法　あ　主　図　そんな　一ふよ　伺　あれ　こう　メア

も　三百　こる　こ　ぐく　こ　おこ　こん　と　弦ぐ　そも

なん　図　実　こ　勿　弦　こ　ぐ　ふ　紙　こ

張　ゆこん　と　紙て　ふ　こ　ん　弾れ　実　屋く　髭

く　髭　こ　こ　ふ　こ　ャンレ　髭　こ　ぐ　引　こ　伸く

張ぐれ　紙れ　沸　実　こ　ん　い　実　こ　ん　屋　乃　五　び

会津殿国綱と嵐みちの物山女さる屋敷に
娘なのまつを小まん後方に白て伺つ見まなく
仕舞まで奴れ髪る者物こあて屋敷これ
ぬきと女ちの山伏字きむ銀れを物よ刑物
ろ紙ち射て行ーと手落ちなつて
養屋探ふ無ちまこ一紙